

中間評価	
○ 成果と▽ 課題	● ▼ 期末への方策等
<p>【第1学年】</p> <p>○国語科の学習単元に関連した本の読み聞かせをしたり、学校図書館と連携して教室に様々な本を用意したりして、児童が本に親しめるようにした。</p> <p>○国語科について、児童の書く力を育成するための取り組みを学年で話し合い、定期的の実施した。</p> <p>▽算数科について、児童の実態に合った授業の仕方、教材の扱い方について、分析を継続して行っていく。</p> <p>【第2学年】</p> <p>○単元に関連した図書教材を教室に用意して、並行読書を促した。</p> <p>○主語、述語に気を付けてミニ作文に取り組むことができた。</p> <p>▽計算処理の速さや正確さに個人差が見られる。</p> <p>【第3学年】</p> <p>○各単元では「構成メモ」を用いることで、「はじめ」「中」「おわり」の意識付けをすることができた。</p> <p>○単元に関連した図書教材を教室に用意して、並行読書を促した。</p> <p>○「五七五」作文では、気もち図鑑を用意して自分の気持ちを表現し、語彙を増やすことができた。</p> <p>▽説明文や物語文は、読み込める児童もいるが、思い込みで内容を理解できない児童も見られる。</p> <p>▽自分の考えをより分かりやすく表現する練習を積ませる必要がある。</p>	<p>●多くの語彙に触れさせるために、読み聞かせと読書の時間の確保を継続していく。</p> <p>●児童一人一人が意欲的に書くことができるように、実態に合った手立てを用意する。</p> <p>▼教員間で授業中の児童の反応やテストの結果等を共有し、実態に応じてタブレット端末や具体物を活用するようにする。</p> <p>●読書時間の確保とともに、季節や行事に関わるテーマを提示して、児童の読書の幅を広げていく。</p> <p>●できた作文を読み合うことで、友達の作品の良さに気付かせたり、自分の文章を読み返す習慣を付けさせたりしていく。</p> <p>▼授業の初めのプリント学習やドリルパークでの繰り返し指導を継続していく。</p> <p>●「構成メモ」を推敲させることで、よりよい文章の構成になるようにする意欲をもたせる。</p> <p>●教師が本を提示したり紹介したりして、本に対する興味を引き出す。</p> <p>●国語科だけではなく、他教科の振り返りとすべての教科において文章を書く機会を増やす。</p> <p>▼文章中に書いてあることにアンダーラインを引くなどして1つ1つ確認しながら、読み進める。文章を音読させて読み取りができていないか確認させる。</p> <p>▼友達のかいた式や図を見て、解き方を説明する活動を、授業に取り入れる。児童相互のコミュニケーションによってさらに考えを深められるようにしていく。</p>

▽計算の速さや正確さにも個人差がある。

【第4学年】

○感想文や学習の振り返りを繰り返し行うことで、主語や述語、接続詞を適切に使う意識が高まった。

○「言葉の宝箱」「気持ち図鑑」「今週の五七五」の活動を通して、語彙を増やすことができた。

▽算数科について、プリント学習やドリルパークを活用し、定着を図ってきたが、まだまだ個人差が見られる。引き続き手立てを用意していく。

【第5学年】

○文章を書く活動を継続して行うことで、目的や相手を意識した文章を書くよう意識させた。

○自分が考えたことについて、より分かりやすく考えをまとめ、より聞き手に伝わるような伝え方に気付かせた。

▽前学年までの学習内容が定着していない児童もいるため、引き続き個別に復習するなどの手立てが必要である。

【第6学年】

○国語科では、教材文や学級図書、関連図書などを活用しすることで、自分の考えを表現する文章の書き方を意識させた。

○ペア活動など交流を充実させることで、多様な考え方や多面的な見方に気付かせる機会を作った。

▽算数科での定着度に個人差が見られるため、個別の復習や支援などの手立てが必要である。

【特別支援】

○文字を想起するのに時間がかかったり、思ったことを文章にすることが難しかったりしたが、支援や補助をすることで書ける場面が増えてきた。

▽文章が少しずつ書けるようになってきたので、今後は書ける文章の量を増やしていく必要がある。

▼計画的に計算ドリルや東京ベーシックドリル、タブレット端末を活用し、苦手な問題を繰り返し解くなどして習熟を図る。

●感想文や学習の振り返りだけでなく、テーマ作文を行い、より主語や述語、接続詞を適切に使えるように指導する。

●分からない漢字や言葉に出会ったときには、引き続き、国語辞典や言葉の宝箱、気持ち図鑑を活用し、さらに語彙を増やしていく。

▼電子黒板、ICT 機器、具体物を活用した視覚的支援を行っていく。

●振り返りやテーマ作文を継続的に行う。朝読書を充実させ、語彙を増やす。

●考えを共有する機会を増やし、友達の文章表現の良さに気付けるようにする。

▼タブレットや補充プリントでの復習も行っていく。ドリルパーク等を活用し、児童一人一人の苦手を把握していく。

●様々な文章の書き方に触れさせて、表現する活動を継続していく。また、振り返りを継続的にを行い、児童自身が振り返りをできる場面を作る。

●多様な考え方を知り、活用できるように引き続き場面に合わせたペア・グループ活動を行う。

▼ドリルパークを活用し、一人一人の学習習熟度にあった問題に取り組みせる。

●様々なツールが活用できるようにしていく。

●興味や関心のあるものを教材に設定して取り組みせていく。

期末評価

○ 成果と▽ 課題

● ▼ 次年度への方策等

【第1学年】

- 本を互いに紹介し合う活動や、本で調べて学習する活動を定期的に行った。
- 国語科について、書く活動をする前に同じテーマで話す活動を取り入れたり、書き方を統一して練習させたりした。
- ▽算数科について、全員に学習内容を定着させることができるように、引き続き手立てを用意していく。

【第2学年】

- 自分が好きな本だけでなく、様々な種類の図書に触れ、じっくり読書する時間を確保することができた。
- 出来上がった文を読み直すときに、主語、述語を意識して直すことができるようになってきた。
- ▽学習内容の定着を図れるよう、学年で共通した指導ができるようにしたい。

【第3学年】

- 日頃から漢字をコツコツと練習させることで、普段から正確に使うことができるようになってきた。
- 構成メモを用いて、段落をつけることを意識しながら文章を書くことができるようになってきた。
- ▽学習内容の定着を図れるよう、学年で共通した指導ができるようにしたい。
- ▽算数科について、計算プリントやドリルパークを活用し、定着を図ってきたが、まだまだ個人差が見られる。

【第4学年】

- 感想文や学習の振り返りだけではなく、テーマ作文に繰り返し取りまわせることで、主語や述語、接続詞を適切に使う意識がさらに高まった。
- 「言葉の宝箱」「気持ち図鑑」「今週の五七五」の活動だけでなく、国語辞典を活用することで、

- 読み聞かせした本について興味をもつため、様々な内容の本を読み聞かせし、読書に繋げていく。
- 書き方が分かる手本等を用意し、児童が抵抗感なく書く活動に取り組むことができるようにする。
- ▼具体物を活用し、児童一人一人の手元に用意して学習内容の定着を図っていく。

- 繰り返し、読み聞かせや読書時間の確保に取り組みたい。
- 話す活動を取り入れ、書く前に、自分がいちばん伝えたいことを明確にできるようにする。

- ▼プリント学習やドリルパークを適切に活用していく。

- タブレット配信だけではなくドリルノートを活用し、書きながら反復練習をできるようにしていく。
- 引き続き構成メモを書きながら内容を確認していく。

- ▼プリント学習やドリルパークを適切に活用していく。
- ▼朝学習の時間を活用し、計算力の向上を図っていく。

- テーマ作文や学習の振り返りを続けていき、それらを自分で読み直したり、友達と読み合ったりすることで主語や述語、修飾語はそれぞれ正しく対応しているか、自分以外も読みやすい文章になっているか確認できるようにしていく。

語彙を増やすことができた。

▽算数科について、計算プリントやドリルパークを活用し、定着を図ってきたが、まだまだ個人差が見られる。

▽各教科の「書くこと」において、自分で読み返し、推敲するところまでは至っていない。

【第5学年】

○振り返りやテーマ作文を継続的に行ったことで、書き方が分かり、文章を書けるようになってきた。朝読書を充実させ、語彙を増やす活動を行った。

○考えを共有する機会を増やし、友達や自分の文章表現を意識できるようにした。

▽前学年の学習内容も、適宜復習を行うことで、定着を図ってきた。まだまだ個人差が見られるため、引き続き手立てを用意していく。

【第6学年】

○様々な形の文章に触れさせて、繰り返し書くことで自分の考えを表現する方法が増えた。振り返りを行った。

○多くの考え方に触れることで、今までになかった見方・考え方をしてみようとする児童が増え、多様な考えが出るようになった。

▽タブレット端末などを活用し、一人一人に合った学習内容の復習を行った。

【特別支援】

○興味、関心のある教材を設定して書く練習を行った。

○スモールステップで文章を書く量を増やしてきた。少しずつ書けるよう量が増えてきた。

●書き方が分かる手本等を用意し、児童が抵抗感なく書く活動に取り組むことができるようにする。

▼朝学習の時間を活用し、計算力の向上を図っていく。

●振り返りやテーマ作文は引き続き続けていくことで書くことがわかり、児童が抵抗感なく書けるようにしていく。

●目的や相手を意識し、より説得力のある文章を書くことができるようにしていく。友達の記事から参考にできるように意識させていく。

▼少人数の学習を生かし、既習事項の復習、発展的な問題など、幅広く取り組み、定着を図っていく。

●様々な文章の書き方に触れさせて、表現する活動を継続していく。また、振り返りを継続的に行い、児童自身が振り返りをできる場面を作る。

●多様な考え方を知り、活用できるように引き続き場面に合わせたペア・グループ活動を行ったことで成果が出た。

▼ドリルパークを活用し、一人一人の学習習熟度にあった問題に取り組みせ、定着を図る。

●様々な題材を設定して書く場面を増やしていく。

▼興味のある題材を設定して書く場面を増やしていく。

●今後も文章を書く量を増やしていったり、意欲的に書いたりできるようにする。

▼タブレット等のツールを活用して学習に取り組めるようにする。